つくしだより　2026 年 4 月号より

色とりどりのメッセージ

＜今月の聖句＞
「そして、天使たちがあらわれ、『イエスは生きておられる』と告げた。」
（ルカによる福音書２４章２２～２３節）

イエスさまは都エルサレムに上る際、近くのベタニア村で休まれました。
そこには、親しいマルタとマリア、ラザロの兄弟姉妹が住んでいました。
重い病気で死んだラザロをよみがえらせた村でもあり、そして
復活されたイエスが天にのぼっていった村とも言われています。
今から３０年ほど前、イスラエルのその村をバックパックで訪ねました。
地元修道会の運営するゲストハウスに数日、泊めていただきました。
ちょうど春、イースターを迎えるときでした。食堂の各テーブルには
色とりどりの模様をつけたゆで卵（イースターエッグ）が山盛りの
おもてなし。固めにゆでた殻を少しずつほぐして剥きながら
シスターたちとよみがえられたイエスさまの話で
意気投合しました。

十字架につけられ三日目によみがえったイエスさま。
復活、というと、なんだか難しく感じますが、
ほんとうはどの命もかけがえのない、神さまの愛がいっぱいつまった贈り物。
すべての命が奇跡なんだよ、それに気づくのが復活祭イースター
ということなのでしょう。

園庭は、モクレンをかわきりに、桜、チューリップ、スノーフレーク…
いのちの饗宴がこの春も繰り広げられています、
赤や白、黄色や紫、さらにそれらのグラデーションの花々を通じて
「君のこと大好きだよ」と神さまは今日も私たちに語りかけています。

（つくし保育園園長　つだかずお）